

消防の沿革

年次	できごと
昭和 22 年 4 月 7 月 10 月 12 月	常備消防部設置 部員 7 人 消防ポンプ自動車 1 台 勅令第 185 号消防団令公布(4 月 30 日)により鈴鹿市消防委員会設置される 鈴鹿市消防団条例制定 警防団解団 消防事務市町村に移譲 鈴鹿市消防団結団式举行 14 地区 14 消防分団 700 人 ポンプ 22 台(四輪 4 台、三輪 7 台及び手引 11 台)をもって発足 初代消防団長 浜口 仙吉 就任する
昭和 23 年 3 月 7 月	消防組織法施行 消防法施行
昭和 24 年 4 月 5 月 10 月	初代消防団長 浜口 仙吉 退任し、第 2 代消防団長に 宮木 虎雄 就任する 消防団条例の改正、消防団設置規則の制定 消防団長 1、副団長 3、分団長 14、副分団長 14、班長 61、副班長 65 及び団員 526 常備消防部廃止 常備消防本部発足(5 月 7 日) 常備消防本部廃止 市消防本部設置(10 月 20 日)消防職員数 10 人 消防ポンプ自動車 1 台 初代消防長 杉本 龍造 就任(市長兼務)する
昭和 27 年 4 月	消防職員数 14 人となる 消防ポンプ自動車 1 台購入
昭和 28 年 7 月 9 月	☆鈴鹿簡易裁判所火災 消防庁舎新設 神戸矢田部町 692 番地に移転
昭和 29 年 4 月 8 月 12 月	第 2 代消防団長 宮木 虎雄 退任し、第 3 代消防団長に 服部 庄右エ門 就任する 河芸郡栄、天名及び合川の 3 村合併し 17 消防分団となる 亀山市との境界変更により井田川村の一部を合併 18 消防分団となる 消防団員数 724 人となる
昭和 30 年 4 月 6 月	市の南部、白子町に消防本部白子屯所を設置 消防ポンプ自動車 1 台購入配置 消防職員数 22 人となる ☆鈴鹿通信病院火災
昭和 31 年 7 月 12 月	市の西部、加佐登町に消防本部加佐登西部仮屯所を設置 消防ポンプ自動車 1 台購入配置 消防職員数 29 人となる ☆紡績工場宿泊所火災
昭和 32 年 4 月	鈴鹿郡三鈴村、同 6 月鈴峰村の一部を合併、21 消防分団となる
昭和 33 年 1 月 6 月 8 月	☆三重県家畜基地農場火災 ☆白子町駅前飲食店火災 消防本部に短波無線電話 2 基新設、消防職員数 36 人となる
昭和 34 年 5 月 9 月 10 月	第 3 代消防団長 服部 庄右エ門 退任し第 4 代消防団長に 勝田 平男 就任する 鈴鹿市消防署を設置、白子屯所、加佐登屯所を白子分所、加佐登分所と改称 消防職員数 42 人となる ☆伊勢湾台風襲来 初代消防長 杉本 龍造(市長兼務)退任し、第 2 代消防長に 田中 甚之助 就任(専任)する

年次	できごと
昭和 36 年 10 月 12 月	☆市立大木中学校火災 消防ポンプ自動車短波無線付 1 台購入、消防署白子分所に配置
昭和 37 年 3 月 4 月 10 月	☆市立千代崎中学校火災 消防職員数 44 人となる 消防署加佐登分所の配置消防車に短波無線電話を備え機動化を図る
昭和 38 年 1 月 2 月 4 月	消防本部に指揮連絡車を 1 台配置 ☆鈴鹿電気通信学園火災 消防職員数 46 人となる
昭和 39 年 4 月 5 月 11 月	☆市立牧田幼稚園火災 消防職員数 49 人となる 消防署に救急車 1 台配置（鈴鹿ライオンズクラブより寄贈を受ける） 消防署に消防ポンプ自動車 1 台配置（日本損害保険協会より寄贈を受ける） ☆第 2 会議所(共同住宅)火災
昭和 40 年 3 月 12 月	第 2 代消防長 田中 甚之助 退任し、消防長事務取扱い 福永 光雄 就任（市助役兼務）する 消防職員数 48 人となる 消防長事務取扱い 福永 光雄 退任し、第 3 代消防長に 藤田 英一 就任（専任）する
昭和 41 年 4 月 8 月	消防職員数 49 人となる 消防新庁舎起工 所在地 飯野寺家町 217 番地の 1 敷地面積 2,432.56 m ² 鉄筋コンクリート造一部 2 階建 望楼（28m） 延面積 848.64 m ² 倉庫（40 m ² ） 昭和 42 年 3 月 竣工
昭和 42 年 4 月	鈴鹿郡鈴峰村合併により 23 消防分団 505 人となる 消防職員数 50 人となる
昭和 43 年 3 月 4 月	消防署に化学消防ポンプ自動車 1 台購入配置 消防職員数 51 人となる 消防団員数 443 人となる
昭和 44 年 4 月 11 月	消防団員数 430 人となる 消防署に救急車 1 台寄贈を受ける（鳴神 達典 氏） 消防署に消防ポンプ自動車 1 台購入配置
昭和 45 年 4 月 6 月 10 月	指揮連絡車更新 消防職員数 52 人となる 車庫（48.60 m ² ）鉄骨スレートで建築 ☆市立加佐登小学校火災
昭和 46 年 3 月 4 月 7 月	第 3 代消防長 藤田 英一 退任する 第 4 代消防長に 奥川 春三 就任（専任）する 消防職員数 55 人となる 消防ポンプ自動車超短波無線付 1 台購入、消防署加佐登分所に配置
昭和 47 年 4 月 10 月	消防職員 60 数人となる 消防ポンプ自動車超短波無線付 1 台購入、消防署白子分所に配置
昭和 48 年 2 月 4 月	消防署に救急車 1 台寄贈を受ける（鈴鹿ロータリークラブ） 消防署白子分所、加佐登分所を白子分署、加佐登分署と改称

年次	できごと
昭和 48 年 4 月 5 月 6 月 10 月	消防職員数 65 人となる 第 4 代消防団長 勝田 平男 退任し、第 5 代消防団長に 伊坂 正勝 就任する 消防署に作業車 1 台購入配置 消防本部に指揮連絡車 1 台購入配置 ☆平田町 共同住宅火災 消防署に屈折はしご車（15m級）1 台購入配置
昭和 49 年 3 月 4 月 6 月 7 月 11 月	消防署に救助隊（レンジャー隊）を編成 消防職員数 67 人となる ☆神戸一丁目 百貨店火災 ☆7.25 集中豪雨襲来 消防署車庫増築（着工） 鉄骨造平屋建（212.93 m ² ） 〃 竣工 消防署に水槽付消防ポンプ自動車 1 台寄贈を受ける（日本損害保険協会）
昭和 50 年 4 月 11 月 12 月	消防職員数 74 人となる ☆加佐登町 製箸所火災 機構改革により消防本部に装備予防課、庶務係、整備企画係、予防係及び危険物係を設置 消防ポンプ自動車超短波無線付 1 台購入、消防署に配置
昭和 51 年 3 月 4 月 10 月	消防署に救急車 1 台寄贈を受ける（エスシーアイリス） 消防職員数 79 人となる 消防署西分署起工 敷地面積 1,554.33 m ² 鉄筋コンクリート造平屋建 295.19 m ² 付属建物（ホース庫、倉庫、機械室）36.0 m ² 昭和 52 年 2 月竣工
昭和 52 年 2 月 3 月 4 月 11 月	☆白子町 寺院火災 消防署加佐登分署を消防署西分署と名称を改め開署する 第 4 代消防長 奥川 春三 退任する 第 5 代消防長に 西川 光男 就任（専任）する 消防職員数 80 人となる 水槽付消防ポンプ自動車 1 台購入、消防署西分署に配置 消防署に救急車 1 台寄贈を受ける（三重県共済組合連合会）
昭和 53 年 3 月 4 月 11 月	救急車 1 台寄贈を受ける 消防職員数 85 人となる 消防署西分署に救急車 1 台配置 ☆広瀬町 製茶会社火災 消防庁舎増築工事着工 昭和 54 年 3 月竣工（2 階会議室 152.1 m ² ）
昭和 54 年 3 月 4 月 10 月 12 月	火災、救急指令装置（B 型）及びクロスバー式自動交換機設置 消防職員数 94 人となる ☆稻生町 寺院火災 消防庁舎増築工事着工 昭和 55 年 3 月竣工（消防署事務所等 185.6 m ² ） 救急医療情報装置運用開始（44 病医院）
昭和 55 年 2 月	消防署に化学消防車 1 台購入配置

年 次	で き ご と
昭和 55 年	4 月 消防職員数 99 人となる
5 月	☆木田町 自動車部品工場火災
10 月	機構改革により消防本部に消防課を設置 消防署南分署起工 敷地面積 1,964.81 m ² 延面積 546.30 m ² 鉄筋コンクリート一部 2 階建 訓練塔 鉄骨造 高さ 18m 昭和 56 年 3 月竣工
12 月	水槽付消防ポンプ自動車 1 台購入
昭和 56 年	1 月 救急車 1 台寄贈を受ける（三重県共済組合連合会）
4 月	消防職員数 104 人となる 第 5 代消防団長 伊坂 正勝 退任し、第 6 代消防団長に 坂倉 健哉 就任する
5 月	救急車 1 台寄贈を受ける（神尾 博 氏）
10 月	広報車 1 台寄贈を受ける（鈴鹿市防火協会）
11 月	☆西條町 店舗併用住宅火災
昭和 57 年	3 月 車庫及び水防倉庫竣工（鉄骨造 2 階建 延面積 584.94 m ² ） 消防署に救急車 1 台購入配置
4 月	消防職員数 106 人となる
6 月	☆寺家町 飲食店火災
8 月	指揮車 1 台寄贈を受ける（日本消防協会）
9 月	☆花川町 製茶会社火災
11 月	広報車 1 台寄贈を受ける（（株）サンフーズ主婦の店） 消防署にはしご付消防ポンプ自動車（35m級）購入配置
昭和 58 年	2 月 ☆寺家五丁目 飲食店火災
4 月	消防職員数 109 人となる
9 月	第 5 代消防長 西川 光男 退任する
10 月	第 6 代消防長に 川原田 昭 就任（専任）する 消防署西分署に消防ポンプ自動車 1 台購入配置 消防庁舎増築工事着工 昭和 59 年 3 月竣工（団本部室等 185.6 m ² ） ミニファックス 聴覚障害者との間に開通
12 月	県医療情報装置運用開始
昭和 59 年	4 月 消防職員数 112 人となる 救急救助係を救急救助第 1 係、同第 2 係に組織変更
8 月	消防本部に超短波無線電話装置（基地局）1 機増設、2 波運用体制となる
10 月	消防署南分署に消防ポンプ自動車 1 台購入配置
11 月	消防署に作業車 1 台購入配置
12 月	広報車 1 台寄贈を受ける（日本消防協会） 消防署に救助工作車 1 台購入配置
昭和 60 年	4 月 消防職員数 113 人となる
10 月	耐震性貯水槽（100 m ³ ）設置開始（初年度 1 基、神戸公園） 消防署西分署に水槽付消防ポンプ自動車 1 台寄贈を受ける（日本損害保険協会） 消防署に消防ポンプ自動車 1 台購入配置
11 月	消防署に小型動力ポンプ付水槽車 1 台購入配置

年 次	で き ご と
昭和 60 年 12 月	☆下大久保町 指定可燃物工場兼倉庫火災
昭和 61 年 4 月 6 月 10 月 11 月 12 月	消防職員数 115 人となる 消防団活性化モデル事業開始 耐震性貯水槽設置 (1 基、白子コミュニティセンター) ☆国府町 自動車販売店火災 消防署に救急車 1 台購入配置
昭和 62 年 3 月 4 月 5 月 10 月 11 月	第 6 代消防長 川原田 昭 退任する 第 7 代消防長に 中根 利彦 就任 (専任) する 消防職員数 120 人となる 第 6 代消防団長 坂倉 健哉 退任し、第 7 代消防団長に 長谷川 清一 就任する 耐震性貯水槽設置 (1 基、若松浜田神社) 消防団活性化モデル事業完了 無線吹鳴装置、車載・携帯無線機及び受令機等全分団に配備
昭和 63 年 2 月 4 月 5 月 10 月	消防署南分署に救急車 1 台購入配置 消防署西分署に救急車 1 台購入配置 消防職員数 127 人となる 消防団員数 437 人となる ☆国府町 倉庫火災 連絡車 2 台更新 ☆東旭が丘二丁目 繊維工場作業場火災 コミュニティ消防センター起工 鉄骨造 2 階建 675.0 m ² 消防車庫 鉄骨造平屋建 108.0 m ² 平成元年 2 月竣工
平成 元年 2 月 3 月 4 月 5 月 8 月 9 月 10 月	☆西玉垣町 醸造会社火災 消防署南分署に水槽付消防ポンプ自動車 1 台購入配置 耐震性貯水槽設置 (1 基、大池公園) 消防職員 129 人となる 機構改革により、消防本部予防課に査察指導係を設置 救急通信波運用開始 ☆平田新町 百貨店火災 消防署西分署起工 敷地面積 3,527.79 m ² 延面積 685.17 m ² 鉄筋コンクリート造 2 階建 訓練塔兼ホース乾燥塔 22m 訓練補助塔 8.35m 平成 2 年 3 月竣工 予防係広報車更新 救急救助資機材等総合整備事業実施
平成 2 年 1 月 3 月 4 月	☆若松東一丁目 共同住宅火災 消防ポンプ自動車 1 台購入 救急車 1 台購入 耐震性貯水槽設置 (1 基、石薬師小学校) 消防署西分署開署 (国府町 3278 番地の 2)

年次	できごと
平成 2 年 4 月	署の組織規則の一部改正により、新分署を消防署西分署、消防署西分署を消防署北分署に改める 水槽付消防ポンプ自動車 1 台、消防ポンプ自動車及び救急車 1 台配置 消防本部 1、消防署 1 及び分署 3 となる 消防職員数 138 人となる
6 月	☆神戸一丁目 店舗併用住宅火災 消防長車購入配置
9 月	山林火災用軽四輪トラック更新 人員搬送車議会事務局より移管
10 月	危険物係広報車更新
11 月	耐震性貯水槽設置（1 基、長太ノ浦小学校）
平成 3 年 3 月	消防署消防ポンプ自動車 1 台更新
4 月	消防職員数 141 人となる
8 月	☆柳町 作業所火災
9 月	広報車 1 台寄贈を受ける（鈴鹿市防火協会）
10 月	耐震性貯水槽設置（1 基、桜島公園）
12 月	消防署に 15m 級はしご付消防ポンプ自動車購入配置 （15m 級屈折はしご付消防ポンプ自動車廃車） 消防署救急車、広報車更新
平成 4 年 4 月	消防職員数 143 人となる
6 月	消防署東分署起工 敷地面積 3,171.50 m ² 延面積 740.85 m ² 鉄筋コンクリート造一部 2 階建 平成 5 年 3 月竣工
7 月	機構改革により、消防本部消防課に救急管理係を設置
10 月	耐震性貯水槽設置（1 基、磯山二丁目）
12 月	救急高度化（9 項目）資機材購入、消防署配置 ☆白子駅前 警備会社事務所火災
平成 5 年 2 月	消防本部指揮車更新
3 月	消防ポンプ自動車 1 台購入 水槽付消防ポンプ自動車 1 台購入 救急車（9 項目対応、防振ベット付）1 台購入
4 月	消防署東分署開署（中箕田町 1139 番地の 1） 水槽付消防ポンプ自動車 1 台、消防ポンプ自動車 1 台及び救急車 1 台配置 消防本部 1、消防署 1 及び分署 4 となる 消防職員数 151 人となる
9 月	救急高度化（9 項目）資機材購入、消防署南分署配置 人員搬送車 市教育委員会より移管（旧人員搬送車廃車）
12 月	耐震性貯水槽設置（1 基、野辺一丁目）
平成 6 年 2 月	☆算所町 店舗併用住宅火災 消防署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新
3 月	☆白子二丁目 店舗併用住宅火災 消防緊急通信指令施設（Ⅱ型）の購入及び通信指令室を移設 耐震性貯水槽設置（1 基、国府町） 消防署に高規格救急車購入配置 消防署に救急普及啓発広報車 1 台寄贈を受ける（日本損害保険協会）

年 次	で き ご と
平成 6 年 3 月	心電図電送装置 2 基購入設置（鈴鹿中央病院、鈴鹿回生病院） 消防署北分署救急車 1 台更新寄贈を受ける（鈴鹿ライオンズクラブ）
4 月	第 7 代消防長 中根 利彦 退任する 第 8 代消防長 浅川 守生 就任（専任）する 消防職員数 158 人となる
10 月	☆池田町 工場火災
平成 7 年 2 月	☆池田町 倉庫火災
3 月	耐震性貯水槽設置（1 基、稻生西二丁目）
5 月	第 7 代消防団長 長谷川 清一 退任し、第 8 代消防団長に 藤田 充 就任する 連絡車 2 台更新
11 月	消防庁舎改修工事着工 望楼改修、消防無線施設（パンザーマスト 22.36m）設置
12 月	平成 8 年 3 月竣工 耐震性貯水槽設置（1 基、南堀江一丁目）
平成 8 年 1 月	消防署南分署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新 消防署南分署救急車 1 台更新（高規格対応型救急車）
4 月	機構改革により、消防本部に消防総務課、総務係及び企画研修係を設置、 消防課に消防係を設置 消防職員数 163 人となる
8 月	耐震性貯水槽設置（1 基、御菌町）
9 月	消防署南分署に消防ポンプ自動車 1 台寄贈を受ける（日本損害保険協会）
10 月	消防署に業務車 1 台、連絡車 1 台寄贈を受ける（本田技研工業株式会社）
平成 9 年 1 月	☆大池三丁目 材木店作業場火災
2 月	消防署北分署救急車 1 台更新（高規格対応型救急車）
3 月	消防署化学消防車 1 台更新
4 月	消防職員数 164 人となる 女性消防団員 15 人採用
6 月	消防庁舎耐震工事着工（消防署車庫・本部事務所）
10 月	竣工
8 月	赤バイ隊発足
12 月	☆国分町 鈴鹿市不燃物リサイクルセンター火災
平成 10 年 2 月	消防署西分署救急車 1 台更新（高規格対応型救急車） 消防署北分署消防ポンプ自動車 1 台更新
3 月	消防署北分署に小型動力ポンプ付水槽車購入配置
4 月	第 8 代消防長 浅川 守生 退任する 第 9 代消防長 渡部 一三 就任（専任）する 消防職員数 165 人となる 消防ポンプ自動車 6 台 水槽付消防ポンプ自動車 6 台 小型動力ポンプ付水槽車 2 台 化学消防ポンプ自動車 1 台 はしご付消防ポンプ自動車 2 台 救助工作車 1 台 救急車 5 台 高規格救急車 2 台 指揮車 1 台 広報車 5 台 救急普及啓発広報車 1 台 消防作業車 2 台 人員搬送車 1 台 連絡車 3 台 業務車 1 台 消防長車 1 台 消防団条例の改正 3 方面隊から 6 方面隊となる 消防団 1 消防分団 23 消防団員定員実員とも 455 人 消防ポンプ自動車 3 台 小型動力ポンプ 22 台 同積載車 22 台

年 次	で き ご と
平成 10 年 9 月 10 月	☆台風 7 号襲来 各種災害発生 携帯電話 119 番受信開始 ☆南玉垣町 店舗併用住宅火災
平成 11 年 2 月 3 月 4 月 7 月 8 月 9 月 12 月	☆若松中一丁目 木工所火災 消防署 救助工作車 1 台更新 鈴鹿市地域防災無線システム運用開始 紀宮内親王行啓 「第 15 回国際青年の村」 皇太子同妃両殿下行啓 「第 11 回全国農業青年交換大会」 ☆小田町国道 1 号 タンクローリー火災 コンピューター西暦 2000 年問題 (Y2K 問題)
平成 12 年 1 月 4 月 10 月 11 月 12 月	消防署東分署救急車 1 台更新 (高規格対応型救急車) ☆伊船町 木工所火災 消防職員数 169 人となる 消防車に救急資器材を積載 (赤救) 試験運用開始 ☆南江島町 店舗併用住宅火災 ☆柳町 航空機事故 (ヘリコプター墜落) ☆江島本町 店舗併用事務所火災
平成 13 年 2 月 3 月 4 月 7 月 8 月 11 月	消防署救急車 1 台更新 (高規格救急車) 消防署北分署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新 ☆寺家町 店舗併用事務所火災 消防職員数 172 人となる 消防車に救急資器材を積載 (赤救) 本格運用開始 消防署における休日夜間住民票の写しの交付開始 ☆国分町 鈴鹿市不燃物リサイクルセンター火災 広報車 1 台寄贈を受ける (鈴鹿市防火協会)
平成 14 年 2 月 3 月 4 月 8 月 9 月 10 月 11 月	水槽付消防ポンプ自動車 1 台購入 救急車 1 台購入 (高規格対応型救急車) ☆長澤町 寺院火災 第 9 代消防長 渡部 一三 退任する 消防署鈴峰分署開署 (長澤町 381 番地) 敷地面積 4,080.54 m ² 延面積 733.36 m ² 鉄筋コンクリート造一部 2 階建 水槽付消防ポンプ自動車 1 台及び救急車 1 台配置 消防本部 1、消防署 1 及び分署 5 となる 第 10 代消防長 柴高 且 就任 (専任) する 消防職員数 173 人となる 機構改革により、情報指令課を設置し、グループ制を導入 (消防本部 4 課 9 グループ・消防署 1 署 5 分署 14 グループ) ☆国分町 鈴鹿市不燃物リサイクルセンター火災 ☆長澤町 東名阪車両火災 ☆河田町 その他 (廃車置場) 火災 ☆国分町 鈴鹿市不燃物リサイクルセンター火災 消防署 35m 級はしご付消防自動車更新

年 次	で き ごと
平成 15 年	3 月 消防署救急車 1 台更新（高規格救急車） ☆木田町 自動車部品工場火災
4 月	消防職員数 174 人となる 機構改革により、消防署に火災調査・査察グループを設置
11 月	消防署小型動力ポンプ付水槽車Ⅱ型 1 台更新
12 月	消防署作業車 1 台更新 消防署西分署消防ポンプ自動車 1 台更新
平成 16 年	1 月 ☆住吉町 弁当販売店火災
3 月	第 10 代消防長 柴高 旦 退任する
4 月	第 11 代消防長 河田 徹 就任（専任）する 消防職員数 176 人となる
7 月	消防指令センター起工 鉄骨造平屋建 220.94 m ² 平成 17 年 3 月竣工
8 月	☆竹野二丁目 神社火災
	☆東旭が丘二丁目 中高層住宅火災
11 月	☆大池三丁目 中高層住宅火災
平成 17 年	2 月 ☆南旭が丘一丁目 共同住宅火災
3 月	消防署西分署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新 消防署東分署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新 第 11 代消防長 河田 徹 退任する
4 月	第 12 代消防長 長澤 康博 就任（専任）する 消防職員数 179 人となる
10 月	☆岸岡町 建築用資材置場火災
12 月	消防署救急車 1 台更新（高規格救急車）
平成 18 年	1 月 新鈴鹿市庁舎竣工 消防防災用高所カメラシステム運用開始
2 月	消防署消防ポンプ自動車 1 台更新
3 月	☆長太旭町四丁目 住居兼作業場火災
4 月	消防署救急支援車 1 台更新 防火広報車 1 台更新 消防職員数 184 人となる 機構改革により、消防署に指揮・調査グループを設置 指揮支援隊の運用を開始する
8 月	☆御薗町 廃プラスチック類処理場火災
10 月	☆西条三丁目 工場火災
平成 19 年	1 月 鈴鹿市消防団防災支援協力者要綱を制定 消防署北分署救急車 1 台更新（高規格救急車）
3 月	消防署指揮車 1 台更新 第 12 代消防長 長澤 康博 退任する

年次	できごと
平成 19 年 4 月	第 13 代消防長 児玉 忠 就任（専任）する 消防職員数 188 人となる 機構改革により、消防本部に政策推進担当及び住宅防火対策担当を設置 予防広報車 2 台更新 鈴鹿市消防団協力事業所表示制度実施要綱を制定 三重県中部を震源とする M5.4 の地震が発生し、市内で震度 5 弱を記録する
9 月	☆阿古曾町 中高層住宅火災
11 月	☆若松西一丁目 一般倉庫火災
平成 20 年 1 月	消防署西分署救急車 1 台更新（高規格救急車） 予防広報車 1 台更新
2 月	☆十宮三丁目 中高層住宅火災 消防署南分署消防ポンプ自動車 1 台更新
3 月	消防署本署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新 本部指揮車 1 台更新
4 月	消防職員数 187 人となる 機構改革により、消防署南分署を南消防署に昇格、消防署を中央消防署に名称変更する 鈴鹿市中央消防署(旧鈴鹿市消防署) 鈴鹿市中央消防署北分署(旧鈴鹿市消防署北分署) 鈴鹿市中央消防署西分署(旧鈴鹿市消防署西分署) 鈴鹿市中央消防署東分署(旧鈴鹿市消防署東分署) 鈴鹿市中央消防署鈴峰分署(旧鈴鹿市消防署鈴峰分署) 鈴鹿市南消防署(旧鈴鹿市消防署南分署)
10 月	☆北堀江一丁目 硫化水素による自損事故
平成 21 年 3 月	南消防署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新
4 月	消防職員数 190 人となる 機構改革により、中央消防署に特殊災害対策担当を設置 中央消防署作業車 1 台更新 中央消防署東分署救急車 1 台更新（高規格救急車）
6 月	☆大久保町 しいたけ培養施設火災
平成 22 年 1 月	消防団防災活動車 1 台寄贈を受ける（日本消防協会）
4 月	消防職員数 192 人となる 機構改革により、中央消防署に統括指揮隊長、庶務予防担当を設置
7 月	消防本部庁舎起工
9 月	☆東江島町 材木店火災
11 月	☆西条三丁目 料理店火災
12 月	中央消防署鈴峰分署救急車 1 台更新（高規格救急車） 消防団多機能型車両 1 台寄贈を受ける（日本消防協会） ☆中旭が丘四丁目 文具模型店火災
平成 23 年 2 月	☆江島本町 料理店火災
3 月	中央消防署 15m 級屈折はしご付消防自動車更新
4 月	第 13 代消防長 児玉 忠 退任する 第 14 代消防長 中西 由委 就任（専任）する 消防職員数 194 人となる

年 次	で き ご と
平成 23 年 4 月	機構改革により、中央消防署に消防団事務担当を設置 ☆三畑町 倉庫火災
5 月	鈴鹿消防高度救急救助隊（ハート）発足
6 月	鈴鹿消防災害時情報収集員（先人隊）発足
10 月	消防長車 1 台寄贈を受ける（鈴鹿市防火協会）
11 月	消防本部庁舎（外構工事は未）が完成し、一部業務開始
平成 24 年 3 月	中央消防署北分署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新 中央消防署北分署消防ポンプ自動車 1 台更新 中央消防署北分署救急車 1 台更新 第 14 代消防長 中西 由委 退任する
4 月	第 15 代消防長 高畠 秀紀 就任（専任）する 消防職員数 198 人となる 機構改革により、南消防署に署長補佐を設置
5 月	☆平田町 自動車製造工場火災
6 月	消防本部・中央消防署新庁舎竣工 中央消防署赤バイ 2 台寄贈を受ける（本田技研工業株式会社） ☆山本町 製茶工場火災
9 月	救急情報ネックレス事業開始
平成 25 年 1 月	☆道伯五丁目 倉庫火災
2 月	本部連絡車 1 台寄贈を受ける（日本消防協会）
3 月	南消防署救急車 1 台更新（高規格救急車）
4 月	消防職員数 200 人となる
平成 26 年 2 月	中央消防署救急車 1 台更新（高規格救急車） 中央消防署北分署小型動力ポンプ付水槽車 1 台更新 中央消防署西分署消防ポンプ自動車 1 台更新
3 月	☆河田町 倉庫火災 第 15 代消防長 高畠 秀紀 退任する
4 月	第 16 代消防長 酒井 秀郎 就任（専任）する 消防職員数 199 人となる 機構改革により、情報指令課に情報管理担当を設置
5 月	☆石薬師町 工場火災
6 月	☆伊船町 木材加工場火災
7 月	☆住吉町 産業廃棄物リサイクル工場火災
8 月	三重県に大雨特別警報が発表される
平成 27 年 1 月	☆深溝町 倉庫火災
2 月	中央消防署救助工作車 1 台更新
3 月	消防団多機能型車両 1 台無償貸付を受ける（総務省消防庁） ☆住吉町 倉庫火災
4 月	消防職員数 200 人となる
11 月	南消防署救急車 1 台更新（高規格救急車）
12 月	高機能消防指令システム、消防救急デジタル無線の運用を開始する
平成 28 年 3 月	中央消防署救急車 1 台更新（高規格救急車） 第 16 代消防長 酒井 秀郎 退任する
4 月	第 17 代消防長 中西 貞徳 就任（専任）する 消防職員数 204 人となる

年次	できごと
平成 28 年 4 月	機構改革により、中央消防署に救助グループ、救急グループ及び火災調査担当を設置
5 月	伊勢志摩サミット消防特別警戒に職員を派遣
6 月	☆南玉垣町 工場火災
9 月	鈴鹿・亀山境界付近の救急相互応援に関する覚書を締結
10 月	中央消防署鈴峰分署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新
12 月	☆国分町 鈴鹿市不燃物リサイクルセンター火災 中央消防署西分署救急車 1 台更新（高規格救急車）
平成 29 年 2 月	中央消防署東分署化学消防ポンプ自動車 1 台更新
3 月	火災等の災害時における環境調査業務等の協力に関する覚書を締結
4 月	消防職員数 205 人となる 機構改革により、中央消防署に統括指揮監、予防査察監及び副予防査察監を設置 南消防署に予防査察監及び庶務予防担当を設置
11 月	中央消防署東分署救急車 1 台更新（高規格救急車）
平成 30 年 4 月	消防職員数 203 人となる 機構改革により、消防課に救急対策室を設置 消防団定員 475 人 消防団本部に大規模災害対応団員を設置
5 月	広報車 1 台更新
7 月	緊急消防援助隊 西日本豪雨災害のため広島県へ職員派遣
8 月	皇太子行啓「全国高等学校総合体育大会」
9 月	火災時における消防用水の確保に関する協定書を締結
平成 31 年 1 月	中央消防署資機材搬送車 1 台更新
2 月	中央消防署鈴峰分署救急車 1 台更新（高規格救急車）
3 月	第 17 代消防長 中西 貞徳 退任する
4 月	第 18 代消防長 中村 康典 就任（専任）する 第 8 代消防団長 藤田 充 退任し、第 9 代消防団長に 杉本 賢志 就任する
7 月	三者間同時通訳による 119 番多言語対応業務運用開始
9 月	広報車 1 台更新
10 月	鈴鹿市及び亀山市におけるはしご自動車に関する連携協約を締結
令和 2 年 1 月	中央消防署北分署救急車 1 台更新（高規格救急車）
2 月	消防団防災学習・災害活動 1 台寄贈を受ける（日本消防協会）
3 月	N e t 119 緊急通報システム運用開始
4 月	中央消防署西分署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新 消防職員数 205 人となる
令和 3 年 1 月	鈴鹿市及び亀山市の共同整備で 35m 級はしご付消防自動車 1 台を更新 南消防署救急車 1 台更新（高規格救急車）
2 月	鈴鹿市及び亀山市におけるはしご自動車共同運用開始
3 月	中央消防署消防ポンプ自動車 1 台更新 広報車 1 台更新
4 月	第 18 代消防長 中村 康典 退任する 第 19 代消防長 落合 満弘 就任（専任）する 消防職員数 209 人となる 機構改革により、消防総務課に政策企画室を設置 機構改革により、中央消防署に消防団グループを設置
11 月	連絡車 1 台寄贈を受ける（鈴鹿市防火協会）

年 次	で き ごと
令和 4 年	1 月 中央消防署救急車 1 台更新（高規格救急車） 2 月 中央消防署指揮車 1 台更新 3 月 中央消防署東分署消防ポンプ自動車 1 台更新 4 月 消防職員数 213 人となる 機構改革により、中央消防署及び南消防署に予防査察担当を設置 10 月 映像通報システム「L I V E 119」運用開始
令和 5 年	1 月 南消防署救急車 1 台更新（高規格救急車） 2 月 中央消防署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新 3 月 第 19 代消防長 落合 満弘 退任する 4 月 第 20 代消防長 酒井 孝明 就任（専任）する 消防職員数 214 人となる 機構改革により、情報指令課に情報管理グループを設置 機構改革により、中央消防署に予防査察グループ及び火災調査グループを設置 5 月 第 9 代消防団長 杉本 賢志 退任し、第 10 代消防団長に 石田 久雄 就任する 南消防署天名分署開署（御菌町 5309 番地） 敷地面積 7,061.26 m² 鉄骨造平屋建 867.89 m² 水槽付消防ポンプ自動車 1 台及び救急車 1 台配置 11 月 消防本部 1、消防署 2 及び分署 5 となる 中央消防署鈴峰分署救急車 1 台更新（高規格救急車）
令和 6 年	1 月 緊急消防援助隊 能登半島地震のため石川県に職員派遣 2 月 南消防署消防ポンプ自動車 1 台更新 3 月 南消防署水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新 4 月 連絡車 1 台寄附を受ける 消防職員数 217 人となる 消防団定員 505 人 消防団本部に機能別団員学生団員を設置 12 月 緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練が鈴鹿市をメイン会場として開催される
令和 7 年	2 月 救急車 1 台寄附を受ける 中央消防署救急車 1 台更新 3 月 第 20 代消防長 酒井 孝明 退任する 4 月 第 21 代消防長 西澤 俊一郎 就任（専任）する 消防職員数 219 人となる 機構改革により、消防本部に統括指揮課を設置 5 月 広報車 1 台更新 6 月 連絡車 1 台更新 8 月 広報車 1 台更新
令和 8 年	3 月 広報車 1 台寄附を受ける 第 21 代消防長 西澤 俊一郎 退任する 4 月 第 22 代消防長 橋本 靖彦 就任（専任）する 消防職員数 220 人となる 鈴鹿市・津市・亀山市 3 市共同の三重中央消防指令センターの正式運用開始